

マクドナルドの1号店が東京・銀座に開店したのは1971年（昭46）7月20日。当方、高校生であったはずだが、なにせコッペパンにジャム世代だからハンバーガーなんぞ、意識外である。

21日付の朝日新聞朝刊は経済面（社会面ではないところがミソか）で「本場の味をどうぞ、ハンバーガー銀座に進出」とやっている。

三越銀座1階、中央通り沿いの、ショーウィンドーと財布売り場を改装したテークアウト専門店で、広さは22坪だった。

すでにこの手の店は日本進出を果たしていたようだが、銀座となれば世間の注目も別格であったのであろう。東京のタクシー初乗りが130円の時代に、1個80円だから割高だが、アメリカンスクールの女子学生をアルバイトに動員、人々がわれ先に群がるにぎわいで、「新、立ち食い文化」、ファストフードの隆盛はここを端緒とするのであろう。

日本マクドナルド初代社長は藤田田（でん＝故人）で、東大時代に起業した彼はその手腕で着々と勢力拡大を図った。当初、気乗りのしなかった飲食業界への進出に際し、この1号店を銀座に据えたのは、それなりの成算を見越してのことであった。

1号店の候補地は銀座、東京タワー、赤坂、茅ヶ崎であった。もちろんブランド力のある銀座が最有力なのだが、マクドナルド米国本社は「（米国での）立地は自転車、自動車で立ち寄れる郊外が基本」と主張、クレームをつけてきた。そこで藤田は茅ヶ崎をダミーに計画を推進、銀座開店を極秘裏に進めた。銀座でヒットすれば全国が注目する、という持論を信じたのである。

開店2日前、米国幹部がセレモニー出席のため来日したが、肝心の茅ヶ崎は営業許可が降りておらず、しつこく銀座を追認する。以後、曲折を経て日本マクドナルドは急成長、現在の地位を確立することになる。

それにしても銀座の一等地、それも老舗三越の店内を改装させ出店を実現させたその手腕は、起業当時の藤田が手掛けた宝石、高級ブランド服、装飾品の輸入を通じて知り合った岡田茂（元三越社長＝故人）との紐帯（ちゅうたい）ゆえであった、という。

岡田は82年の、いわゆる「三越事件」で失墜する。愛人とのスキャンダルに起因する突然の社長解任で発した「なぜだ！」はこの年の流行語となった。

それはさておき、当初の1号店はその後、晴海通り沿いに移転するのだが、店先には「マクドナルドハンバーガー 発祥の地 1971・7・20」の記念プレートが誇らしげに掲げられていた。

銀座店はその後再開発の波にのまれ、2007年（平19）5月31日、22年の歴史を閉じている。

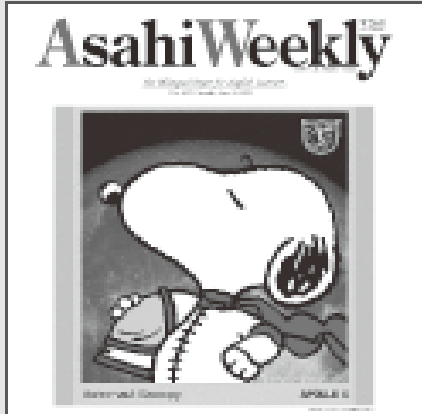
「新聞に載らない内緒話」 <http://www.nikkansports.com/general/column/naisyo/news/>
※上記のHP（ホームページ）からの原稿の転載はご遠慮ください。



Asahi Weeklyは、朝日新聞社が発行する英語学習者向けバイリンガルペーパーです

毎週日曜日発行
月額¥1,016(税込み)

お申し込みはお近くのASA(朝日新聞販売所)へ



Asahi Weekly

Crewmates are go!

朝日ウィークリーは
「ピーナッツ」の「ミック」日曜版を
日本語訳付きで
毎週、掲載しています

朝日新聞

新聞購読料のお支払いは

口座振替
クレジット払い
が便利でお得!

わずらわしさスッキリ解消!
クレジットカードのポイントがたまる!



専用の申込書にご記入の上、ご投かんください。ASA 強い新聞・雑誌などをご利用いただけます。

お問い合わせ・お申し込みは最寄りの販売所へ